

## 「座・高円寺(杉並区立杉並芸術会館)」が5月オープン

舞台芸術の創造・発信や区民の文化活動の拠点として建設を進めてきた「座・高円寺(杉並区立杉並芸術会館)」が、5月1日にオープンしました。

座・高円寺は、地上3階・地下3階建てで、延べ床面積は4980㎡、世界的な建築家である伊東豊雄(いとうとよお)氏が設計をしました。

黒い鉄板におおわれた外観と波打つテントを張ったような形状の屋根や、内部に自然光を取り入れる多数の明かり窓が特徴で、ひと目でそれと分かる建物は、区の文化・芸術活動の発信地にふさわしい独特な雰囲気をかもし出しています。

施設設備においては、公演内容に合わせて舞台・客席を自由に設定できる「小劇場」(基本形状客席数233)、様々な文化活動などに利用できる「区民ホール」(最大298席)、50年余の歴史を持つ「高円寺阿波おどり」をサポートする「阿波おどりホール」といった、3つの特徴あるホールを備えており、地域に根ざした芸術文化の拠点として重要な役割を果たしていくこととなります。



## 角川庭園・幻戯山房「すぎなみ詩歌館」開園



園内に設置された水琴窟

5月10日(日)、午前10時から、角川庭園・幻戯山房「すぎなみ詩歌館」(荻窪3-14-22)の開園式が行われました。平成17年に寄贈を受けた、俳人であり角川書店の創始者である故・角川源義氏の旧宅と庭の整備工事が終了し、角川庭園・幻戯山房～すぎなみ詩歌館～として開園しました。邸宅は、和風の数寄屋造りの雰囲気を生かした改修を行い、源義氏にちなんだ展示室、句会などを催せる詩歌室や茶室の貸室がある幻戯山房「すぎなみ詩歌館」として整備し、庭園とともに一般公開することになりました。

### トピックス☆☆☆

### 減税自治体構想 ～げんぜいじちたいこうそう～

山田区長の公約として、故松下幸之助氏の無税国家論をもとにした構想です。

毎年、予算の一定額を積み立て、税収の増減に左右されない強固な「財政のダム」を築き、大規模災害などの緊急時の備えとするとともに

に、将来、区民税の減税を行い、「低負担・高福祉」の地域社会を築くという構想。

今後の経済動向などをふまえ、積立額、減税額等その実現性についてはしっかりと研究していきたいと思ひます。